

自然という書物 15～19 世紀のナチュラルヒストリー&アート

町田市立国際版画美術館（原町田 4） 23. 03. 18～05. 21



本展は、15～19 世紀西洋のナチュラルヒストリー（自然誌/博物学）とアート(美術/技芸)のつながりに注目し、人間が表わしてきた自然のすがた・かたち(画像)を紹介する企画である。

古くから人間は、自然物や自然環境—動物や植物、肉眼では捉えることができない微小な静物、地球上の地勢や地質などを記録してきた。

言葉と絵によって描写された似姿の普及に、近年の活字と版画などの印刷技術が大きな役割を果たしてきたことは特筆すべきであり、さらに自然は美術の靈感源となり、美術の表現手法が自然の図解に用いられてきたことも見逃せない。

展覧会では、ナチュラルヒストリーとアートの混淆（こんこう：異質なものが入りまじること）によって、西洋の紙上に築かれてきた、自然のすがた・かたちビオトープ(生息空間)ともいうべき世界を十分堪能することができる。

C・F・マルティウス 《熱帯ヤシ科植物図譜》第3巻 上図部分



R・J・ソートン 《フローラの神殿》より「植物に愛を射込むクピド」左
《キリストの生涯注解》より 1482 年頃刊 木版・手彩色 中
V・ホラー 《四季》より「春」1641 年 銅板 右